

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「輝くびらとり未来につなごう」産業創造プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道沙流郡平取町

3 地域再生計画の区域

北海道沙流郡平取町の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 平取町の概況

平取町は北海道日高振興局管内西端に位置し、面積743.16㎓で東西52.8km南北41.1kmとやや三角形に似た地形のまちである。

町を貫流する沙流川の清らかな流れが育んだ、豊かで雄大な自然のもと、この地に先住し自然を敬い共生してきたアイヌの人々の生活文化や、先人達が共に築いた歴史・文化を守り育てながら、農林業を基幹産業として発展してきた。

平成22年の国勢調査では人口が5,596人で、平成17年と比較すると576人（9.4%）減少しており、最も多かった昭和35年の13,387人からみると、この半世紀で半分以下まで激減し、高齢化率は、28.8%（平成22年国勢調査）と北海道平均（24.8%）よりも4.0ポイント上回っている。

就業構造は、平成17年の国勢調査によると、15歳以上の就業者数は3,225人で、産業別では、第1次産業従事者が34.9%、第2次産業が17.5%、第3次産業が47.6%となっており、北海道全体の平均値と比較すると第1次産業が27.2ポイント高くなっている（北海道：7.7%）。反面、第3次産業は23.7ポイント低くなっている。

また、平成21年経済センサス調査によれば、本町に所在する事業所の産業分野別の従業員数の構成比率は、建設業が17.0%ともっとも高く、次いで、卸売・小売業の12.7%となっている。

基幹産業の農業は、とりわけトマト生産は販売額41億円を超え、「ニシパの恋人」としてブランド化されるに至っている。現在は農業が文字通り地域の経済を支えているが、平成22年の調査の結果では、販売農家のうち50歳以上の農業経営者が67%を占めており、後継者または後継者候補がいるのは、全体の56.8%に過ぎない状況が明らかになったことから、今後とも、農業と地域の発展を継続していくためには、農業の担い手確保が重要な課題となっている。



しかし、農業分野だけに限らず、就業者の高齢化・後継者不足は深刻の度合いを極めており、今後も人口の流出や減少が止まらなければ、産業、教育、情報、交通通信等あらゆる分野で弊害を生み、また、過疎化の進行は都市部との格差を生み、加速度を増して拡大すると考えられ、当町でも大きな問題となっていることから、平成19年度を始期とする平取町総合計画（計画期間10年）を樹立し、平成24年度からの後期5カ年計画においてその対策に積極的に取り組んできている。

また、当町には、アイヌの人々が古から集住し、アイヌ文化が色濃く残る二風谷地区を中心としたアイヌ文化施設などには修学旅行生や観光客が年間17万人程度訪れている。しかし、町内の宿泊機能が十分に整備されていないことなどから、従来は通過型観光となっている。平成23年に道東自動車道が全線開通になったことから、今後は当町を通過する交通量が減少することも予測されるため、滞在・体験型観光への転換が求められている。

（２）地域再生の目標

この様な背景を踏まえて、地域再生のための施策を講じ、平取町総合計画と相俟って地域経済の活性化を図る必要があることから、重点的な分野を以下の2つに定め、地域再生に向けた取り組みを推進することとしたい。

【①農林業を活かした六次産業分野】

平取町は、沙流川流域の比較的温暖な気候風土と森林資源をもとに農林業を基幹産業として発展してきた。なかでも米作からの転作作物として奨励されてきたトマト（生食・ジュース）は、関西方面ほか道外に数多く出荷されており、びらとりトマトとしてのブランドが確立している。

その生産基盤を維持発展させていくために、本町では現在、年間2世帯の新規参入希望農業研修生受け入れと実践農場での技術指導など、先進的な取り組みを行っている。一方、ブランド維持のためには、徹底した品質管理と安定供給のための生産体制が不可欠なことから、消費者が求める、産地として担う農業体験や地産地消的な加工・販売PRができる観光農園等の農業の六次化経営は、現在のトマト生産農家での対応は困難と言える。

基幹作物の水稲と畑作も堅調に推移しているが経営面積は減少傾向で、付加価値を高めた出荷が望まれている。畜産は、優良素牛生産と安全で良質な肉牛生産により「びらとり和牛」の産地銘柄確立に努めている。しかし、近年はエゾシカによる食害が多発し、被害額も増加し経営を圧迫していることから、その対策も急務となってきている。

また、林業分野は、海外の安価な木材との競合から厳しい経営環境が続いているものの、近年、二酸化炭素を吸収し地球温暖化防止に役立つとともに癒し効果があり、木質チップなどのバイオマス・エネルギーの供給源としても期待され、一部の民間企業ではこれらの取組みを先駆けて実施しつつあり、森林資源があらためて見直されてきている。

したがって、これまで地域を支えてきた農林業の経営基盤をより強化にしていく一方で、六次化など産業の多様化を平取町総合計画の下で図るとともに、以下のような目標を立てて携わる人々の新たな雇用の場を創出し、持続的な産業を創

造していきたい。

- 農林産物の栽培と加工・販路開拓
- 農業体験施設の企画・運営
- 鹿肉加工・販路開拓
- ローカル・エネルギーの活用 等

【②地域資源を活かした交流産業分野】

平取町は沙流川流域の豊かな自然資源などを背景にアイヌ文化が継承されてきており、かつての北海道ブームの折りには、二風谷地区のアイヌ伝統工芸品を製作・販売する民芸店に多くの観光客が訪れていた。

その後、平取町立二風谷アイヌ文化博物館や沙流川歴史館などが開設され、修学旅行生などが現在も多く訪れている。しかし、大半が立ち寄り型で、滞在して伝統文化を体験し、伝説・伝承の地を訪れる例は多くないのが実状である。

また、日本一を誇るすずらん群生地のお賞会やチプサンケ、沙流川まつり、PKグランプリなどのイベントには多くの参加があるが、経済的な波及効果を実感することがないのも現状である。

このような状況を踏まえ、当町では町立二風谷アイヌ文化博物館周辺に国の重要文化的景観保護推進事業（平成19年選定）やアイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業（平成20年度開始）などによって、伝統的家屋のチセ群や平取町アイヌ文化情報センターを整備し、アイヌ文化の里としての充実を図っているが、長引く景気の低迷から来客者は減少し、アイヌの人々を中心とする観光産業関係者に大きな打撃を与えている。

さらに、当町には、日本百名山の一つ幌尻岳に代表される豊かな自然や二風谷ファミリーランドなどの憩いの場、義経神社やその伝説、身近な自然や歴史にふれられるフットパスコースなど、多様な地域資源が存在しているが、それらは未だ広く知られていない状況である。

以上のような背景の中、平取町総合計画の下で、以下のような目標を設定して様々な地域資源を活かした交流人口の拡大を図りつつ、交流拠点施設の一つとして期待の高い、びらとり温泉の改修建設も計画しており、食事や人的サービスの提供、特産品の販売などの促進により、地域を活性化し雇用の場を創出し、地域の活性化につながる交流産業を創造していきたい。

- 観光ツアー商品の企画・運営
- 観光ガイド・情報サービスの提供
- 伝統工芸等地域ブランド商品販路開拓
- 宿泊温泉施設・文化施設等の管理運営 等

【地域再生計画の数値目標】

平成22年の国勢調査データの平取町人口の推移をもとに平成27年の人口推計を試算すると平成22年に比べ593人の減少となる。

仮に全国の人口減少率をもとに平成27年の平取町の人口推計を試算すると、

平成 22 年に比べて 275 人の減少となる。その差 318 人の人口減少を 5 年間で解消すると考えてみると、1 世帯 4 人とみなした場合、16 世帯／年の移住・定住を促進する必要がある。

以上を踏まえ、平取町創造計画に基づく国の実践型地域雇用創造事業の活用や平取町総合計画の推進などにより、16 世帯／年の移住・定住の促進を数値目標とする。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

沙流川流域の豊かな自然環境のもと発展してきた農林業とアイヌ文化をはじめとする多様な地域資源を活かして、以下の 2 つの重点分野について地域再生に向けた事業を推進し、新たな雇用を創出するとともに持続的な産業を創造していく。

①農林業を活かした六次産業推進事業

農林産物の栽培や加工・販売を段階的に拡充し、併せて、農業体験施設、直売所等の運営を行う。また、養鹿施設の整備と鹿肉の加工、販路開拓に取り組む。さらに、林地残材・農業残渣等を活用したローカル・エネルギーの利活用システムの構築を行う。

②地域資源を活かした交流産業推進事業

観光ガイドによる地域資源を活かしたツアーの企画・運営や、観光・文化施設等の交流拠点の整備運営、伝統工芸を活かした文化交流産業の振興、遊休施設を活用した交流・定住拠点の整備などに取り組む。

5-2 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 支援措置による取組

■実践型地域雇用創造事業【B0906】

I 雇用拡大メニュー（事業主を対象）

(1) 農林観光産業新規参入セミナー

イ 事業内容

農林業や観光など新分野への進出や多角経営化をめざす建設事業主・その従業員、六次化農場の創業予定者（企業経営者等）を対象として、異業種参入や農林業経営の基礎研修等を実施し、雇用の受け皿づくりを推進する。

- ロ 事業実施期間
平成24年7月～平成27年3月
- ハ 事業実施主体
平取町地域活性化協議会

(2) 地域資源活用新商品開発セミナー

- イ 事業内容
農林業や観光など新分野への進出や多角経営化をめざす建設事業主・その従業員、六次化農場の創業予定者（企業経営者等）を対象に、本事業実践メニューで開発された新商品や観光プログラムを紹介・提供するセミナーを開催する。
- ロ 事業実施期間
平成24年7月～平成27年3月
- ハ 事業実施主体
平取町地域活性化協議会

II 人材育成メニュー（地域求職者を対象）

(1) 農林産物の栽培技術講習

- イ 事業内容
トマトやキノコ、山菜など当町における地域資源として活用のできる様々な農林産物の栽培・育成等の技術習得や関連する知識及び技能付与のための講習を行い、課題解決に不可欠な人材ニーズに適した人材の育成を図り、農業サポートシステムや新エネルギー供給システムへの地域求職者の就業や創業を目的として実施する。
- ロ 事業実施期間
平成24年7月～平成27年3月
- ハ 事業実施主体
平取町地域活性化協議会

(2) 農林産物・鹿肉の加工技術講習

- イ 事業内容
トマトやキノコ、山菜などの農林産物や害獣とされているエゾシカの肉等に関する加工技術や食品衛生、規制、資格等に関する知識習得及び技能付与のための講習を行い、農林産物等加工センターの創設や新たな起業の推進、既存加工場の通年雇用を可能とする新加工商品開発や運営に必要な人材の育成を目的として実施する。
- ロ 事業実施期間
平成24年7月～平成27年3月
- ハ 事業実施主体
平取町地域活性化協議会

(3) 自然・歴史文化ガイド講習

イ 事業内容

沙流川の豊かな自然に育まれてきたアイヌの人々の歴史と文化ですが、国内では知られる機会が少ないことから、地域文化や歴史をビジネスにできるガイドの先進事例を学び、恵まれた自然を活かした森林療法、フットパス等に関する知識と技術習得及び技能付与のための講習を行い、増大を見込んで創設する交流人口受け入れ組織と、新たな起業の推進に寄与する人材を育成していく。

ロ 事業実施期間

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

(4) 伝統工芸製作加工技術講習

イ 事業内容

二風谷地区のアイヌ伝統工芸品は古くから製作され、海外博物館に展示される優秀作品も多く高い評価があり、生業に結びつく有望な職種であることから、その創業に関する技術習得を目的とした講習や技能付与のための講習を行う。

ロ 事業実施期間

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

(5) 接客講習

イ 事業内容

びらとり温泉・案内所・直売店等の観光施設や文化施設等における接客接客などの業務に必要な知識習得及び技能付与のための講習を行う。

ロ 事業実施期間

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

(6) ネット活用セミナー

イ 事業内容

求職者等が本事業の基本メニュー受講により得られた知識や能力を活かして起業、創業に結びつき、IT企業や地域企業に就職するために有利な技能を習得し、インターネットを活用したPR・販売方法を学ぶ機会として、パソコン及びインターネット等操作技能を付与する講習を行う。

ロ 事業実施期間

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

Ⅲ 就職促進メニュー

(1) ホームページの開設・運営

イ 事業内容

実践型地域雇用創造事業で実施予定の各種事業等の周知のため、新たにホームページの開設・管理を行い、魅力ある本地域の地域資源の情報発信を通じて、U・I・J ターン就職を喚起し、地域における雇用促進を図る。

ロ 事業実施期間

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

(2) 就職面接会の開催

イ 事業内容

各種関係機関と協力して、本事業を利用した事業者、求職者を対象として、就職面接会を実施することにより、求人・求職のマッチングを通じた就業機会の拡大と充実を行い、雇用拡大を図る。

ロ 事業実施期間

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

Ⅳ 雇用創出実践メニュー

イ 事業内容

(1) 新商品開発事業

① 農林産物や鹿肉の活用

農林産物やその加工品等に関するマーケット調査を行い、それらをふまえて試験栽培や加工試験を実施し、商品開発を行う。また、鹿肉の加工試験をもとに商品開発に取り組む。さらに、トマトハウス等の資源循環型農業経営を目指して、バイオマス・エネルギーの利活用について実証試験を行う。

1) 農林産物や鹿肉・加工品のマーケット調査

- ・農林産物（トマト・キノコ・山菜等）や鹿肉とその加工品に関する市場調査

2) 農林産物の商品開発

- ・トマト等の加工試験と商品開発
- ・茸・山菜等の加工試験と商品開発

3) 鹿肉を使った商品開発

- ・鹿肉等の加工試験と商品開発

4) バイオマス資源収集と加工試験

- ・農林業残渣等の収集
- ・原材料の加工試験と商品開発
- ・利用試験の実施

② 伝統工芸と食文化のブラッシュアップ

アイヌ文化の伝統工芸品の産業化を目指して、伝統工芸に現代のニーズを組み合わせた新商品の開発に取り組む。また、伝統的な食文化を背景として、現代の食材や嗜好を取り入れた食の開発にも取り組む。

1) 伝統工芸品の商品開発

- ・現代のニーズに即した伝統工芸品の商品開発

2) 地域の特徴を活かした食の開発

- ・伝統的な食文化に現代の嗜好を組合せたメニューの開発

③ 観光ツアーの開発

沙流川流域の豊かな自然とアイヌの文化をはじめとする地域の歴史文化、伝統工芸の体験などを組み合わせたツアープログラムを企画し、モニターツアーを開催して、地域の資源を活かした観光ツアーの商品開発を行う。

1) ツアープログラムの開発

- ・平取町のさまざまな地域資源を組み合わせたプログラムの開発

2) モニターツアーの開発

- ・開発したプログラムによるモニターツアーの開発

3) ツアープログラムの紹介

- ・開発したツアープログラムの地域への紹介

(2) 販路拡大及び誘客事業

① 開発商品の販路拡大

商品開発を行った農林産物や鹿肉、伝統工芸品等に関する新商品の展示、PRと試験販売を行い、販路拡大に取り組む。

1) 農林産物や鹿肉に関する販路拡大

- ・トマトやキノコ・山菜、鹿肉等を使った新商品の展示・PR・試験販売

2) 伝統工芸品の販路拡大

- ・伝統工芸品の新商品の展示・PR・試験販売

② 首都圏・札幌圏への平取町地域資源に関するPR

幅広いマーケットを有する首都圏や札幌圏に向けて、農林産物や鹿肉、伝統工芸品等の新商品や既存商品に関するPR活動を行い、販路拡大に取り組む。さらに、沙流川流域の豊かな自然やアイヌの伝統文化、びらとりトマトやびらとり和牛などの地域資源を活かした平取町の観光に関するPR活動を行う。

1) 首都圏への平取町に関するPR活動

- ・農林産物や鹿肉、伝統工芸品等の首都圏での展示・試験販売や観光情報のPR

2) 札幌圏での平取町に関するPR活動

- ・農林産物や鹿肉、伝統工芸品等の札幌圏での展示・試験販売や観光情報のPR

(3) 農林産物の試験栽培事業

トマトやキノコ等の農林産物の試験栽培を行い、それらの収穫物を新商品の開発等に利用する。

1) 農産物の試験栽培

- ・露地栽培圃場等の準備
- ・加工用トマト等の試験栽培

2) 林産物の試験栽培

- ・榎場・山菜林等現況調査
- ・榎場・山菜移植圃場の準備
- ・榎木採取・植菌
- ・山菜等の移植
- ・椎茸等の試験栽培・収穫
- ・山菜等の試験栽培・収穫
- ・椎茸・山菜等の試験販売

ロ 事業実施期間及び実施スケジュール

平成24年7月～平成27年3月

ハ 事業実施主体

平取町地域活性化協議会

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 中小企業振興対策事業

イ 事業内容

商工業の振興と経営改善のための事業に補助

ロ 事業主体

平取町

ハ 事業規模

平成24年度 30,372千円

ニ 事業成果

今後も継続実施予定。

(2) 農業者就農促進対策事業

イ 事業内容

就農時に農業施設、機械等の購入資金、家賃の1/2を助成

ロ 事業主体

平取町

ハ 事業規模

平成24年度 40,300千円

ニ 事業成果

平成23年度実績2件。今後も継続実施予定。

(3) 新規就農希望研修生用住宅整備事業

- イ 事業内容
実践農場研修生用住宅整備（一棟2戸／年）
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 25,600千円
- ニ 事業成果
平成24年度新規事業、今後も継続予定。

(4) 農業支援センターの運営

- イ 事業内容
営農指導・担い手育成・土づくり業務を行うセンターの運営
- ロ 事業主体
平取町・平取町農業協同組合・沙流土地改良区
- ハ 事業規模
平成24年度 2,656千円
- ニ 事業成果
平成23年度 新規就農者等への営農技術支援。今後も継続。

(5) 有害獣侵入防止柵整備補助金

- イ 事業内容
農地保護のための防護柵を設置
- ロ 事業主体
農事組合
- ハ 事業規模
平成24年度 153,750千円
- ニ 事業成果
平成24年度新規事業、今後も継続予定。

(6) 農産物加工場管理委託

- イ 事業内容
農産物（トマトジュース）加工場の管理委託
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 3,000千円
- ニ 事業成果
今後も継続予定。

(7) 地場産業振興対策事業

- イ 事業内容

地域の資源を活用した特産品開発事業に対する補助

- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 1,238千円
- ニ 事業成果
今後も継続予定。

(8) ふるさと親子留学住宅建設事業

- イ 事業内容
ふるさと親子留学の家族用ログハウスの提供
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 5,040千円
- ニ 事業成果
平成23年度までに9組（親子20名）。今後も継続予定。

(9) 移住定住推進事業・若者地域体験移住促進事業

- イ 事業内容
地域おこし協力隊の受け入れ
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 10,296千円
- ニ 事業成果
平成23年度 3名。今後も継続予定。

(10) 企業誘致・移住定住推進事業・交流農業体験施設整備事業

- イ 事業内容
企業誘致・移住情報提供、定住促進奨励助成、区画整理、宣伝
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 30,300千円
- ニ 事業成果
平成24年度新規。今後も継続予定。

(11) アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業

- イ 事業内容
自然と共生してきたアイヌの人々の生活の場をイメージし再生する事業
- ロ 事業主体

- 平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 11,900千円
 - ニ 事業成果
平成20年度より実施。今後も継続予定。

(12) 重要文化的景観保護推進事業

- イ 事業内容
アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観の保護推進事業
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 15,500千円
- ニ 事業成果
平成19年度より実施。今後も継続予定。

(13) びらとり温泉改築事業

- イ 事業内容
交流産業の拠点施設となる温泉施設の改築事業
- ロ 事業主体
平取町
- ハ 事業規模
平成24年度 30,400千円
- ニ 事業成果
平成24年度 敷地造成。平成25年度 本体工事。平成26年度 オープン。

6 計画期間

認定の日から平成28年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

「4 地域再生計画の目標」の項目ごとの目標指標の達成度を総合的に評価する。